



2020年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年8月13日

上場会社名 太洋物産株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9941 URL <http://www.taiyo-bussan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 滋
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部ジェネラル マネージャー (氏名) 宮内 敏雄 TEL 03-5333-8080
 四半期報告書提出予定日 2020年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期第3四半期の業績 (2019年10月1日～2020年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第3四半期	11,507	△19.4	△187	—	△220	—	△222	—
2019年9月期第3四半期	14,290	△4.3	26	△68.4	△31	—	△34	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第3四半期	△167.48	—
2019年9月期第3四半期	△26.08	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年9月期第3四半期	8,618	12	0.1	9.66
2019年9月期	9,684	237	2.4	179.07

(参考) 自己資本 2020年9月期第3四半期 12百万円 2019年9月期 237百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年9月期	—	0.00	—	—	—
2020年9月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年9月期の業績予想 (2019年10月1日～2020年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,260	△1.3	76	137.5	19	—	9	—	7.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
 ② ①以外の会計方針の変更： 無
 ③ 会計上の見積りの変更： 無
 ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期3Q	1,328,219株	2019年9月期	1,328,219株
② 期末自己株式数	2020年9月期3Q	753株	2019年9月期	753株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年9月期3Q	1,327,466株	2019年9月期3Q	1,327,466株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第3四半期累計期間	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(セグメント情報等)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における経済は、新型コロナウイルスの世界的な蔓延が、人の流れ、物の流れを阻害し、我が国においても国際的スポーツの祭典オリンピックを延長せざるを得ない状況となり、消費を中心とした経済環境の好転が見通せない中で、第3四半期会計期間末を迎えました。

このような環境の下、当社の主要商品である食肉関連では、外食産業を主要取引先としていることから、牛肉・加工食品は、外食産業の不振がダイレクトに販売の減少の要因となっており、また鶏肉においては、新型コロナウイルスによる販売低迷に加え、オリンピック等の来日客増加などでのインバウンド需要を見越した企業の在庫が市況を圧迫した結果、市場価格は低迷し、取扱数量・売上高ともに減少となりました。

農産品では、新型コロナウイルスによる影響で商機を捉える機会が限定されていることもあり、取扱数量・売上高とも減少しました。車輛部品等では、エンジンの取引終了に伴い、売上高が大きく減少となっておりますが、その対応策として取り組んでいる対中国向けの生活関連物資が徐々にではありますが軌道に乗り始めております。

輸入豚肉に関しましては、商流等の変更があり、取扱数量・売上高とも減少となりました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は115億7百万円(前年同四半期累計期間比19.4%減)、営業損失1億87百万円(前年同四半期累計期間は営業利益26百万円)、経常損失2億20百万円(前年同四半期累計期間は経常損失31百万円)、四半期純損失2億22百万円(前年同四半期累計期間は四半期純損失34百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(食料部)

牛肉・加工食品につきましては、輸入価格が高値で推移し、消費が敬遠されている中、新型コロナウイルスの拡散防止のため、外出を自粛する要請等で外食の機会が一段と奪われている環境にあり、それらの外食産業に販売する取扱数量・売上高ともに減少となりました。鶏肉におきましても新型コロナウイルスの影響はあるものの、それ以上にオリンピックの延期決定が、市場に与えた影響は大きく、オリンピック需要を見込んだ在庫が市況を押し下げる結果となって現れており、取扱数量・売上高ともに減少となりました。

この結果、当第3四半期累計期間での売上高は、67億76百万円(前年同四半期累計期間比23.7%減)となりました。

(営業開拓部)

農産・化学品では、新型コロナウイルスによる影響は限定的であったものの、車輛部品等でエンジンの取引が終了していることもあり、この環境下では新たな商談等の機会を得ることが難しく、取扱数量・売上高ともに大きく落ち込む結果となりました。このエンジンの取引終了に伴い、新たな営業活動としては、中国からの来日客による日本国内での購買が不可能に近いことから、通販等を利用した需要が旺盛になってきており、その商流に乗った新たな商品の輸出が売上高を伸ばし始めましたが、当期間中では業績を押し上げるまでには至りませんでした。

この結果、当第3四半期累計期間での売上高は、19億74百万円(前年同四半期累計期間比1.9%減)となりました。

(生活産業部)

輸入豚肉では、商流の関係でEU産輸入業務を縮小させ、新たな商機を取り組んでおりますが、取扱数量・売上高ともに減少となりました。中国産加工食品は、生産国に対しての風評は大分薄れてきているものの、新型コロナウイルスにより消費量は落ち込んでおり、取扱数量・売上高ともに減少となりました。

この結果、当第3四半期累計期間での売上高は、27億56百万円(前年同四半期累計期間比18.5%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期累計期間末の資産につきましては、現金及び預金、商品及び製品の減少等により前事業年度末に比べ10億65百万円減少し、86億18百万円となりました。

負債につきましては仕入債務及び未払費用の減少、借入金の返済等により、前事業年度末に比べ8億40百万円減少し、86億5百万円となりました。

純資産につきましては、四半期純損失の計上等により前事業年度末に比べ2億24百万円減少し12百万円となりました。自己資本比率は0.1%となり、前事業年度末に比べ2.3%減少しております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年9月期の通期業績予想については、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴う業績への影響が不透明であることから、現段階では2019年11月14日発表の予想数値を据え置いております。今後状況の進展及び事業の進捗を踏まえ、適正かつ合理的な算定が可能となった段階で、修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,846,384	2,413,706
受取手形及び売掛金	2,630,954	2,289,139
商品及び製品	3,502,573	3,162,735
その他	67,310	126,067
貸倒引当金	△1,858	—
流動資産合計	9,045,365	7,991,649
固定資産		
有形固定資産	265,664	259,262
無形固定資産	19,191	16,064
投資その他の資産	353,989	351,579
固定資産合計	638,846	626,906
資産合計	9,684,211	8,618,555
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,353,024	799,430
短期借入金	7,287,978	7,142,886
未払費用	381,738	297,759
その他	139,427	82,498
流動負債合計	9,162,169	8,322,575
固定負債		
退職給付引当金	132,539	138,577
その他	151,787	144,574
固定負債合計	284,326	283,151
負債合計	9,446,496	8,605,727
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,344,975	1,344,975
資本剰余金	1,306,916	1,306,916
利益剰余金	△2,416,406	△2,638,742
自己株式	△969	△969
株主資本合計	234,515	12,180
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	3,199	648
評価・換算差額等合計	3,199	648
純資産合計	237,715	12,828
負債純資産合計	9,684,211	8,618,555

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
売上高	14,290,430	11,507,816
売上原価	13,827,410	11,333,400
売上総利益	463,020	174,416
販売費及び一般管理費	436,754	362,157
営業利益又は営業損失(△)	26,266	△187,740
営業外収益		
受取賃貸料	8,612	8,566
投資有価証券売却益	—	10,801
保険解約返戻金	3,745	—
助成金収入	—	8,554
その他	1,308	556
営業外収益合計	13,666	28,479
営業外費用		
支払利息	58,999	51,776
為替差損	3,802	1,656
その他	8,949	7,440
営業外費用合計	71,752	60,873
経常損失(△)	△31,819	△220,134
税引前四半期純損失(△)	△31,819	△220,134
法人税、住民税及び事業税	2,738	1,445
法人税等調整額	72	756
法人税等合計	2,811	2,201
四半期純損失(△)	△34,631	△222,335

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自2018年10月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	8,889,561	2,014,910	3,385,958	—	14,290,430
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	8,889,561	2,014,910	3,385,958	—	14,290,430
セグメント利益又は 損失(△)	163,329	△1,569	10,902	△146,397	26,266

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△146,397千円は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来当社の報告セグメントは「食料部」「総合食品部」「営業開拓部」「生活産業部」の4区分としておりましたが、第2四半期会計期間より「食料部」「営業開拓部」「生活産業部」の3区分に変更することといたしました。これは、会社組織の変更に伴い、2019年1月4日付けでセグメントを変更したことによります。

各セグメントの事業に係る主な取扱商品は、以下の通りであります。

- (1) 食料部 牛肉・鶏肉・タイ産加工食品
- (2) 営業開拓部 車輛部品・農産品・化学品
- (3) 生活産業部 豚肉・中国産加工食品

なお、前第3四半期累計期間の報告セグメント情報は変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自2019年10月1日至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	6,776,037	1,974,978	2,756,800	—	11,507,816
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,776,037	1,974,978	2,756,800	—	11,507,816
セグメント利益又は損失(△)	△82,261	11,444	12,373	△129,297	△187,740

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△129,297千円は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。